

「動物園」ではなく「自然文化園」
それには訳があるのです。

東京の動物園といえば、「上野動物園」、「多摩動物公園」、そして「井の頭動物園」……と言いたいところですが、正式名称は「井の頭自然文化園」。ソウやサルもいるのに「動物園」じゃない。ちょっと不思議です。なぜなのでしょう？ その誕生の時代までさかのぼって、謎をひもときましょう。



1942年開園時正門
写真提供：井の頭自然文化園



現在も昔日の姿を留めている開園当時の「大放飼場」
写真提供：井の頭自然文化園

「井の頭恩賜公園自然文化園」の開園は、昭和17年（1942）5月17日。ハワイ真珠湾での日本軍による米軍奇襲の半年後のことでした。先だって昭和9年にオープンしていた中之島の小動物園が再整備されて「分園」となり、新たに御殿山に「本園」が造られての開園でした。飼育屋にされたのは、ほ乳類19種、257点、鳥類106種、4508点、ソウ、ライオン、トラなども加わる予定でしたが、戦時色が強まるなか計画は縮小され、普通なら「目玉」となる猛獣は、中之島の小動物園にもといたホッキョクグマとニホンクマだけ。キリン、ラクダ、ダチョウなどが「上野動物園」からやってきたものの、ロバ、シカ、サル、タヌキなどの小動物が中心でした。

実は、初めの段階で構想されていたのは、動物園と植物園と博物館が一体となった「大野外博物館」で、一般的な「動物園」とは一線を画した「自然生態観察園」の視点で発想されたものでした。擬岩の岩山や岩壁を配した野外の放飼場が広がる、当時としては画期的な計画でした。しかし戦争の影響が深刻になり、人手や物資が不足し、予算も約10分の1に減額。鉄類の使用も一切禁止されていたので、飼育施設の大部分は木造になり、檻には廃材や竹も使われました。とはいえ、もともと生えていた樹木の大半を利用した「大放飼場」や「植物生態園」など、動物や自然をそのまま観察できるように展示の仕方が工夫されていました。計画は縮小されても、「自然生態の観察と科学的育種の育成」という本質は失われることなく表現されていたのです。そして計画の縮小にもかかわらず、「大野外博物館」の構想当初の名称でもあった「自然文化園」と名づけられたのです。

安田知代

安田知代（ゆたか）と申す。編集者・ライター。「井の頭公園」*のガイドブック「井の頭公園 29.40年」編集、「井の頭公園プロジェクト」*（www.tatewase.jp）

現在、第1回井の頭公園検定（通称「いのけん」）の準備が進んでいます。6月初めにプレス発表されますので注目してくださいね。



写真提供：井の頭自然文化園

『いのけん』（井の頭公園検定）講座

- 問題1 … 井の頭自然文化園は戦時中の1942年5月17日に開園しましたが、翌週の日曜日の来場者は何人くらいでしょうか。 a)50人 b)700人 c)5000人 d)20000人
- 問題2 … 井の頭自然文化園では国の天然記念物のツシマヤマメコが飼育されています。それは、飼育繁殖とともに災害や感染症から守る危険分散の意味もあります。唯一公開されているツシマヤマメコの名前はどれでしょう。 a)トラジロウ b)フクタ c)リリー d)サクラ

答えは裏の面にあります。

が水生物館横の小川の茂みに滞在しました。昔の井の頭池にはいた鳥ですが、用心深いクイナが安心して過ごせる場所は今は分園にしかありません。

動物園は飼育されている動物を見に行くところと思っている人が多いと思います。でも、じつは野生動物を見に行くのにもよい所です。普通の公園より自然環境の質が高いことが多く、有料なので来園者もそれほど多くありません。しかも夜はほぼ無人です。そのため、貴重種だけでなく普通の野生動物も集まり、ほかでは見られない落ち着いた姿を見せてくれます。彫刻園や彫刻館もある自然文化園は緑豊かで静かな場所が多く、野生の生き物に優しい所です。ぜひ年間パスポートを手に入れて頻りに訪れてみてください。野生動物観察のよいところは、毎回違うものを見られることです。

もうひとつのお勧めは、水中を横から見る事ができる、分園の白鳥池のガラス壁です。水が濁っているため見えるのは近くだけですが、運がよければ、誕生したウキゴリの稚魚たちや、小魚を襲うオオクチバスなど、池の中のドラマを目撃することができます。

白鳥池のウキゴリの稚魚（5月）。ウキゴリはハゼ科の在来種。



井の頭公園の生き物たち その4 ミズゴイ



撮影：高久晴子

自然文化園に来る野生動物

彫刻館の横でミミズを捕っていた野生のミズゴイ（サギ科）です。環境省のレッドリストでは絶滅危惧ⅠB類。ほぼ日本だけで繁殖する夏鳥で、個体数は千羽以下と言われています。とても少ないため、よほど運がよくないと見られません。そんな希少な鳥が毎年5月ごろ、渡りの途中に井の頭公園に立ち寄ることが分かっています。普通は夜行性なのに、このように昼間に地上で餌を探せるのは、ここにはあまり来園者が来ないからです。

2010年初めの冬には、水辺で暮らす鳥クイナ（クイナ科）

至近距離で観察できる水生物館のカップルは、カイツブリファンには有難い存在です。水中を自在に泳ぎ回り魚を捕らえる能力、それを可能にする体の造りの意味、子育てのようすなど、カイツブリの秘密をつぶさに観察できるからです。とくに驚いたのが、彼らが次から次に子育てを繰り返すことでした。そのため飼育係の人が巣に擬卵を入れ、彼らは子育てを許される期間以外は、写真のように、一年中それを抱えています。気候が安定し十二分な餌があれば、カイツブリはいつでも子育てができるのです。



水生物館のカイツブリ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

アートマーケットとファンアーティストな人々



北村直子さん（動物園のデザイナー）

井の頭自然文化園はポスターやチラシ、動物の解説ラベルや資料館の展示などが、ずいぶんおしゃれだと思いますか？ こうしたデザインを一手に引き受けているのが、井の頭自然文化園教育普及係の北村直子さんです。

美大を卒業後、陶芸の制作をしていた北村さんは2008年、ツシマヤマメコの特設展示の展示づくりに誘われました。海外にはデザイナーが常駐する動物園もあるそうですが、日本では異例のこと。園内でデザインができると、アイデアを盛り込んだ凝った展示をつくることができます。以来、特設展示は、教育普及係の他の4人のスタッフと相談しながら、手づくりしてきました。



親しみやすい雰囲気の子ラシヤリーフレット

ほかにも入口のステンドグラスや売店のメニューボードなどをデザインしています。「リピーターが多い園なので、どこか懐かしさを出せるように、文字や色使いに気をつけています」。ポスターに写真よりも絵を多用するのは、小動物を愛らしく表現するための工夫です。「デザインで園をより面白く、楽しくしていきたいですね」と北村さんは言います。

小田原 澯（おだわら みお） 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。*特例で5月1・2日も開催します。

今月のはな子



はな子の春

この冬はこの他寒さが厳しく、国内最高齢（65歳）のはな子にとっても大変つらい季節でした。年末から体調を崩し、好物のパナナに口（鼻？）を付けられない日が続き、なんとか栄養をつけてもらおうと、様々な野菜やパレット類を日替わりで用意して少しでも気に入った物を食べられるように担当者が頭を悩ませていました。そんな時、一番気に入って食べたのが、なんと「おにぎり」でした。一日に一升のお米を炊いて、特大サイズのおにぎり数個を作って食べさせたのです。その甲斐あって、四月に入り少しづつ陽気良くなるにつれ、はな子の体調もようやく回復傾向を見せ、一同ほっとしましたが、今度は暑い夏をどう乗り切るか今から心配しているところです。

井の頭自然文化園 飼育係長 山本藤生

井の頭自然文化園

●開園記念クイズラリー 4月28日（土）～5月20日（日）
5月19、20日は開園記念の催しをします。

- 5月19日（土） ●70周年記念お祝い会
●開園記念スペシャルトーク（園内各所）
●水辺の小道開通式
●“ヒネモス”といっしょ 文化園お祝いミニコンサート
- 5月20日（日） ●園長とどうぶつえん歴史散歩
●飼育係のはな子ガイド
●水森亜土コンサート
など、2日間とも1日中さまざまな催しを開催します。

●井の頭自然文化園 開園70周年記念消防フェア 5月27日（日）
★開園時間1時間延長
ゆっくり楽しんでいただけるよう開園時間を延長します。5月3日（木）～6日（日）（入園5時まで、閉園6時まで）
★無料開園日
どなたでも入園料無料でお入りいただけます。5月4日（金）みどりの日、5月17日（木）開園記念日

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

●ネイチャー☆プログラム
ネイチャー☆プログラムとは…次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- ツリー☆マジック 5月5日（土）場所：第二公園
6月2日（土）場所：第二公園
- あおぞら実験室 5月6日（日）場所：井の頭池付近
6月3日（日）場所：井の頭池付近
- グリーンバード 5月13日（日）場所：井の頭池付近
5月27日（日）場所：井の頭池付近
6月10日（日）場所：井の頭池付近
6月24日（日）場所：井の頭池付近
- ツリートレック 5月20日（日）場所：第二公園
- ネイチャー☆マジック 5月27日（日）場所：第二公園
- ネイチャー☆インプロ 5月27日（日）場所：第二公園
6月24日（日）場所：第二公園
- ネイチャートレック 6月17日（日）場所：第二公園

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

井の頭かんさつ会

- 第84回 「井の頭の森で宝探し 春の夏鳥探鳥会」 5月12日（土）
1回目 6:30～8:30（今回は鳥が出やすい早朝にも行います）
2回目 9:30～11:30
- 第85回 「神田川の生き物探し」 6月17日（日） 10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法は HP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。



井の頭自然文化園開園70周年記念号

井の頭

吉祥寺

4号 2012年5・6月号

2012年（平成24年）5月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀1-12-17
株式会社文祥 発行
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO法人みたか都市観光協会
武蔵野市観光推進機構

●制作支援
株式会社文祥 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園開園100周年まで

あとちょうど5年

建設絵本 コイ太郎の巻 その4
雨の日が続く、善福寺川からの流れも加わった神田川は、水かさが増え、ぐんぐん流れてきます。コイ太郎は善福寺の池からやって来たカルガモに、井の頭池の話を聞きました。するとカルガモは、「あそここの象のはな子は日本一の長生きだそう。なんでも65歳にもなるらしい。大したものだね。」と言いました。コイ太郎もうれしくなって、川下りをがんばろうと思いました。 絵と文 せのうさちこ

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住

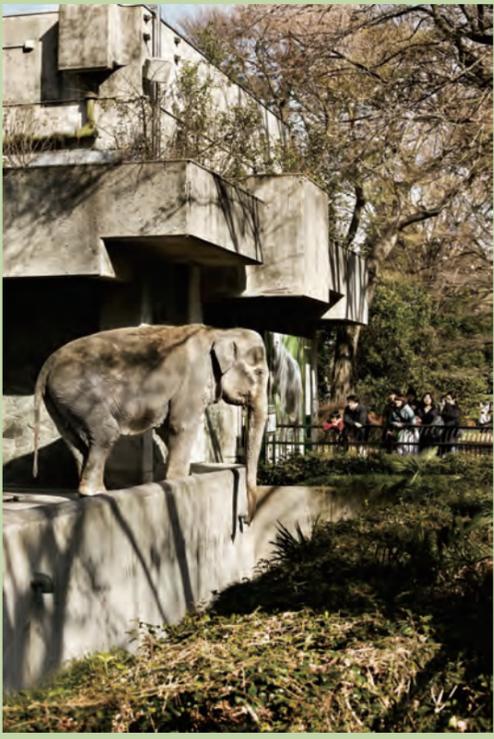


写真 古賀 親宗 (こが もとのり)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。



（注）1984年5月5日に、現在の井の頭自然文化園分園にある場所に開園。東京府役所が制作したパンフレットには『井の頭恩賜公園動物園』となっている。

（文 川井 信良）

井の頭自然文化園の資料館開館に 協力をした小学5年生たち

須田 孫七 (杉並区在住)

僕はね、生まれてすぐ重い病気にかかったんですよ、4歳まで持たないって。包帯をぐるぐるに巻かれてね、不憫に思ったんですよ。祖母が土日に井の頭公園まで連れてってくれた。昭和9年、井の頭池の中之島に小動物園(今)ができた頃ですから3歳の時です。餌をあげたりして一日楽しんだわけです。家に帰れば帰ったで、周りに昆虫が沢山いるというので、やはり祖母がいろいろ見つけてきてくれました。それが昆虫少年の誕生です。

その後、病気も徐々に治まり、小学生の頃には石神井の昆虫学者加藤正世先生が開いている昆虫の同好会に入っていました。そのとき聞いたのが、今度開園する井の頭自然文化園の中に資料館が出来るという話です。

実は、加藤先生は東京府から資料館の展示を任されていたのです。自然文化園の開園は、太平洋戦争が始まって半年後ということもあって、標本類が集まらなかったのでしょうね。そこで、小学5年生だけど、100箱以上の標本を持っていった僕が目をつけた。笑。病気が治った僕は遠方にはいけないから近場の昆虫だけです。それも良かった。園の方針は東京の昆虫展示ですから、ぴったりの標本だったんです。

それでも足りなかったから、今度はクラスメイトの標本とか、もっと採集しようというところになったんですよ。これには訳があるんです。僕の桃井第一国民学校5年2組の担任は西沢二郎先生といって、理科教育に熱心な青年教師で、加藤先生や後に自然文化園の園長となる木村四郎さんも知り合いで、良い資料館を作りたいという思いに賛同していたんです。それが、5年2組の協力につながったのです。

そんなわけで、自然文化園の資料館は5月17日の開園に間に合わず10月3日に開館したのですが、開館にこぎつけた陰には小学5年生が標本を提供したり採集した協力があったといっています。

(すだまご)ち東京大学総合研究博物館研究事業協力者

私と井の頭公園 その4

おめでとう70周年 井の頭自然文化園

記：小田原 澤

井の頭自然文化園はこの5月17日に開園70周年を迎えます。
動物がいて、樹木が茂り、彫刻ありミニ遊園地ありの表情多彩。
普通のガイドブックには載らない旬の自然文化園を、成島悦雄園長に案内していただきました。

動物の見どころ ▶ もちろんはな子がダントツの人気者 日本産の小・中型動物もゆっくり見て回ろう

モルモット

お気に入りを抱っこする

子どもだけでなく、老若男女問わず人気のふれあいコーナーは10～12時と13～15時。約160匹のモルモットはぎゅぎゅぎゅに身を寄せ合っていて、とってもおとなしいんです。気に入った1匹を選んで抱き方を教えてもらい、抱っこすると小さな鼓動を感じます。そして裏手にある繁殖部屋。モルモットは生まれたときから毛が生えて、目も開いているので赤ちゃんはミニチュアのような。3カ月で大人になり、2カ月間の妊娠期間を経て出産。授乳が終わったら、ふれあいコーナーにデビューします。抱っこされてもおとなしいのは、大人の貫禄だったんですね!



身を寄せ合ってじっとしています

リス

登ってくるリスにご注意

あちらではクルミを割り、こちらでは追いかけっこ。放し飼いにしたリスののびのびとした姿が見られる「リスの小径」は広さ546㎡。毎年秋にリスを数えて個体識別をしますが、「ここで繁殖するリスもいるので、いまは100匹くらいでしょうか」。そう説明する成島園長のズボンのポケットに頭から突っ込んでしまったリスがいて、助け出すのに大わらわ。意外と爪が鋭いのでびっくりしますが、リスが足を登ってきたら体をゆすって下りてもらいましょう。



放し飼いにするリスの小径

サル

日陰を作る計画が進行中

アカゲザルが自由に遊び回るサル山は、日差しをささぎるものはありません。サルの暑さ対策は大きな問題。「2～3歳の子どもは水遊びをしますが、大人は水浴びもせず、じっと休んでいることが多いです」と成島園長も心配しています。そこで生木を入れて、日陰を作る計画が進行中。早く木陰でくつろぐサルに会いたいですね。



子どもは活発に遊びます

いぎもの広場

野生生物にも出会えます

いぎもの広場は昨年オープンしたばかり。自然体験の機会が少ない子どもたちが、身近な野生の生き物と出会うための場所です。「野生と動物園をつなぐ、ピオトープのような場所。毎週日曜11～12時に職員がガイドします。池にはトンボが卵を産み、積んだ落ち葉にはカブトムシの幼虫が眠っています。さまざまな仕掛けが潜んでいて、運がよければトカゲやモグラに会えるかも。閉店直前の伊勢丹吉祥寺店が資金を寄付してくださるなど、園を応援する人たちの温かい気持ちに支えられてつくられました。」



門をくぐると野生動物とのふれあいが始まります



雑然とした風景こそ野生の仕掛け



モグラが通った跡のようです

アジアゾウのはな子

春になって元気復活

井の頭自然文化園を象徴する、圧倒的な人気者のはな子は今年65歳になりました。日本の動物園で飼育されたゾウの長寿記録に並び、世界で生存しているゾウとしては5番目に長生き。「寒い日の続いた冬の間は食欲が落ちてしまって、大好きなバナナを食べないときもありました。ビスケットや乾パンなど目先を変えると食べてくれるので、手を変え品を変え…。薬用酒を与えたこともありました」と成島園長。春を迎えてはな子が元気を取り戻してきました。



もりもり食べて元気なのはな子

施設の見どころ ▶ 歴史を刻む彫刻や建物 リニューアル計画も進んでいます

資料館

スタッフが展示を手作りします

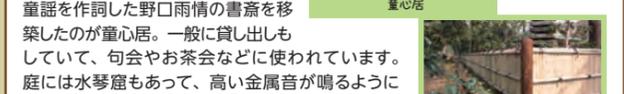
11月25日まで、特設展示「Wonder Hut Returns ～どうぶつのおふしぎがいっぱい」を開催。動物の毛皮やとげを触ってみたり、レントゲン写真を見たり、動物の身体能力を実感したり。遊びながら動物の不思議を体感する展示は、教育普及係5人のスタッフの手作りです。



エサ作りに挑戦!



リスの骨はこんな感じ



開催中の特設展示

童心居

技術を伝承する竹垣

「赤い靴」や「しゃぼん玉」などの童謡を歌詞にした野口雨情の書斎を移築したのが童心居。一般に貸し出しもして、句会やお茶会などに使われています。庭には水琴窟もあって、高い金属音が鳴るようにいつも手入れされています。周りを囲む竹の垣根にも注目。「垣根作りの技術を伝承するために、数年おきに作り替えます」



童心居



「額額寺垣」という名前の垣根

狛犬

平和に終わりが来ませんように

長崎平和公園にある「平和祈念像」を自然文化園で制作した北村西望。平和を願う気持ちは、彫刻館の前に建つ狛犬にも表れています。普通は口を開く阿(あ)と口を閉じる吽(うん)の一对で作られる狛犬ですが、ここは阿形のみ。「吽は終わりを意味しているので、ずっと平和が続くように、西望さんは吽形を作らなかつたそうです」



口を開いた阿だけの狛犬



ぞうさん弁当 鼻が動くぬいぐるみ

熱帯鳥温室

レトロな建物はもうすぐ見納め

中央線からも見える高さ15mのガラス張りハイカラな温室は昭和37(1962)年にオープンしました。背の高い熱帯植物が生い茂り、色鮮やかな熱帯の鳥が飛び交う様子はちょっとしたジャングルです。この温室は現在の基準では違法建築で、昨年の震災では50枚のガラスにひびが入りました。レトロな雰囲気がとても人気ですが、今年度中の取り壊しが決まっていますので、もうすぐ見納めです。



レトロな熱帯鳥温室



熱帯植物が茂るなかを鳥が自由に飛び回ります

水辺の小道

水生物園もリニューアルが進んでいます

吉祥寺通りを挟んで井の頭恩賜公園の池の中之島にある分園には、水鳥や淡水生物が飼育されています。昭和63(1988)年にスタートした「オシドリ千羽計画」は、かつて井の頭池にもいたオシドリを分園内で孵化・繁殖して放鳥するというもの。2年前に1000羽を達成しましたが、残念ながらあまり池に居着いてくれませんでした。繁殖地の跡地が、水辺版の「いぎもの広場」として今年度中に生まれ変わります。

歴史の傷跡

マツのハート型が伝えること

自然文化園が開園した昭和17(1942)年は太平洋戦争の真っ最中。戦争末期、松から採れる松根油を戦闘機の燃料に使おうと、子どもまで動員されて採取をしました。園内のアカマツとクロマツの計22本には、腰よりも低い位置に大きなハート型くぼみがあります。このときに子どもたちが、採取のために傷をつけた跡です。



ハート型の傷跡

園内動物慰霊之碑

いつまでも安らかに

元気な動物たちもいつかはこの世を去っていきます。亡くなった動物を弔う慰霊碑は園の片隅にひっそりと建っています。彫刻館の主である彫刻家・北村西望の作です。



園の西端にひっそりと建ちます

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

『いのきちさん』のホームページができました! 更新中!
<http://www.inokichisan.com/>

スマートフォン対応

『いのきちさん』を置いていただける所を募集しています。

【いのけん】講座 答え合わせ

問題1 答え：d) 20000人 解説：戦時中とはいえ、多くの人が開園を待っていたのですね。

問題2 答え：a) トラジロウ 解説：すでに兄弟が繁殖に貢献しているトラジロウが選ばれ公開されています。